

生協と連携 利便性維持

生活店舗一部集約で

三重・JA伊勢

三重県のJA伊勢は3月下旬、管内の一部生活店舗を集約した。今後、同JAでは生活協同組合コープみえと連携し、店舗集約後の地域利用者らの利便性維持に取り組んでいく。



同JAでは現在、持続可能な経営基盤の確立・強化に向けた取り組み（3Cプログラム）を進めている。その取り組みの一つとして、同JAの生活店舗をJAに代わって運営してもらえ人を地域から募集した。申し込みがなかった4店舗は3月下旬から順次集約した。

それらの店舗を集約した代替として、同JAは、集約する店舗利用者らの買い物手段の確保に取り組み、既に移動購買車の導入・増台に取り組んでいる。また、食料をはじめとする生活必需品の宅配サービスなどを展開する生活協同組合コープみえとの連携も進めていく。

生協はほとんどの生活必需品を取り扱っており、

店舗前で宅配サービスについて説明を行う生協の担当者

電話注文、宅配…買い物手段確保

り、購入者の自宅まで商品が届くことや、同JA管内の全ての地区を営業エリアとしていることから、店舗集約後も利用者らの買い物手段の確保が可能。電話注文が可能で、スマートフォンでの操作が難しい高齢者でも電話で注文ができる。

集約前のそれぞれの店舗で行った閉店セールでは、生協が説明ブースを設けて店舗利用者らにサービス利用を呼びかけた。

同JA経済部の太田圭一郎長は「地域に根差した同じ協同組合である生活協同組合コープみえや三重外湾漁協との協同組合間の連携を通じて、地域の組合員・利用者の利便性維持だけでなく、喜んでいただける企画の実践に取り組んでいきたい」と話す。

今後、同JAでは生協と連携し、集約した店舗を生協に出張店舗として単発的に利用してもらうことを検討している。

（三重・伊勢）